

## 第2回 琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会

### 議事概要

■日時 平成22年10月12日(火) 13時30分～16時00分

■場所 コラボしが21 3階 大会議室

■出席者

(委員)

河地 利彦	京都大学大学院 農学研究科 教授
田中 宏明	京都大学大学院 工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 教授
津野 洋	京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授
西野 麻知子	滋賀県 琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門長
藤岡 康弘	滋賀県 水産試験場長
脇田 健一	龍谷大学 社会学部 教授

(事務局)

国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域政策課 広域都市圏整備室	辻 室長
	青島 専門調査官
	相本

オブザーバーは別紙のとおり。

■議題

(1) 第1回委員会議事概要

(2) 琵琶湖の総合的な保全のための計画調査

① 第2期計画の目標・指標の設定等について

② 琵琶湖の総合的な保全のための計画調査報告書とりまとめについて

■資料

第2回琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会 議事次第

資料-1 第1回琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会 議事概要

資料-2 第1回琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会 指摘と対応

資料-3 第2期計画の目標・指標の設定等について

資料-4 琵琶湖の総合的な保全のための計画調査とりまとめイメージ(案)

参考資料-1 湖沼、湾、河川等でのPDCAサイクルを利用した環境保全計画等の事例

参考資料-2 琵琶湖流域でのモニタリング実施状況アンケート調査結果

参考資料-3 「琵琶湖の総合保全」に対する取組に関するNPO等へのアンケート結果

## ■議事概要

### (1) 第1回委員会議事概要、第1回委員会指摘と対応について（資料－1、資料－2）

- ・議事概要、指摘と対応について一同異議なし。

### (2) 第2期計画の目標・指標の設定等について（資料－3）

- ・水質については、水道水源や水辺利用（レクリエーション）などの視点から衛生学的な問題についても整理することが重要であり、濁度や大腸菌等に関するデータを追加して分析する必要がある。（委員）
- ・場で整理しているが、水・物質の流れから見たときに、つながりが分かりにくくなってしまっている。例えば、市街地における生活排水や工場排水、農地における畜産系負荷などが記載されておらず、必要とされる機能や課題が明確でない。（委員）
- ・温暖化対策や資源の循環という視点で見ると、場をどうやってつないでいくかが重要であり、そのつながりを分かりやすく表現する必要がある。（委員）
- ・琵琶湖の重要性は下流域の水源としての役割や様々な調整機能をもっているということであり、琵琶湖下流域の水質（琵琶湖からの流出水の水質）についても追加して整理する必要がある。（委員）

→それぞれの指摘に対して現状の整理・分析を行った上で検討したい。（事務局）

- ・場をつなぐ物質の流れは自然的環境分野でも非常に重要であり、特に生物が生息する場の形成を考えると、山から川を通じて琵琶湖へ供給される土砂の連続性の分断に対する改善を行っていく必要がある。（委員）
- ・これまでの10年間の琵琶湖の自然に大きく影響を及ぼしていると考えられる湖岸堤や、内湖と琵琶湖の間を分断している水門、また水位操作の問題について、今後10年間でどう改善していくかという視点が必要である。（委員）

→難しい問題であると同時に重要な問題だと認識している。現在水位操作に関しては試行を行っており、そういった状況を踏まえてなるべく具体的に記載できるよう検討したい。（事務局）

- ・課題と施策の整理については、例えば農地の減少とそれに対する施策だけではなく、その背景となる担い手の不足やコミュニティの地域環境管理能力の低下といった上流域での問題に対する支援があってもいいのではないかと思う。また、担い手やコミュニティへの支援があって、そこにNPO等の参画・協働が繋がってくるものだと考える。（委員）

→欠席委員からも林業関連の担い手を表す人数や育成の状況といったことも踏まえてアウトプット指標として明確にしていく必要があるという指摘があったので、そのあたりも含めて検討していきたい。（事務局）

- ・計画対象地域には、大戸川流域は入っているのか。計画対象地域について、対象地域図と文章を適切に示す必要がある。（委員）

→琵琶湖の保全を目的としたものであるため、計画対象地域は瀬田川洗堰より上流であり、大戸川流域は計画対象地域に含んでいないことから、図及び表現を計画対象地区の範囲が判る

ように修正する。(事務局)

- ・場として、農地と記載しているが、畜産地は入るのかなど何が含まれているか、その定義を明確にする必要がある。また、施策等に畜産系負荷等への対応を追加する必要がある。(委員)
  - ・場については、法律に基づくというよりも一般市民感覚で分かるような区分の言葉として、何を含めているのかを明確に定義する必要がある。(委員)
- 場の示す範囲について定義を整理したい。(事務局)

- ・森林・山地、市街地、農地の水質保全のアウトカム指標として河川への流入水質とあるが、地下水の水質をモニタリングするということも含まれるのか。(委員)
- 対象は各場の代表的な箇所から流入した地点毎の河川の水質であり、地下水の水質のモニタリングまでは想定していない。(事務局)
- ・適切な表現に修正するとともに、地下水の問題をどう考えるかということも含めて検討する必要がある。(委員)
- 検討したい。(事務局)

- ・自然的環境・景観保全の指標として、整備面積だけではなく、人の手が入っていない湖辺域の面積や良好な自然の保全面積といったものがあり、保全されたところが減少していないという評価も必要である。(委員)
- データを確認した上で検討したい。(事務局)

- ・目標とアウトカム指標について、記載している内容で各分野の具体的な内容を十分に表せているか、あるいは判断できるかという科学的な相関や判断基準がとれるかどうかということについては、もう少し検討する必要がある。(委員)
  - ・例えば、工場等で水を繰り返し有効に使っている再生利用率など直接表に現れないが、効果につながるもの(流域の努力)を表す指標は必要ないか。(委員)
- 今後作業を行いながら、関連する指標や目標について、追加で入れるべきものを判断していきたい。(事務局)

- ・環境にも配慮した水位操作について今後検討していく必要があり、必要な施策項目のところに水位操作のあり方の検討や関連する指標を入れる必要がある。(委員)
- 調査・研究の中の大きな柱として、水位操作に関する検討を明記している。(事務局)
- ・検討よりも一歩進んで、順応的に検討するという形で入れてほしい。(委員)
  - ・何か関連する指標はあるか。(委員)
  - ・魚の産卵数や稚魚数といった現在モニタリングされている比較的分かりやすいものを指標にできるのではないか。(委員)
  - ・琵琶湖岸における自然攪乱のあり方を検討課題として追加してほしい。(委員)
- 調査・研究課題としてこれから検討していきたい。(事務局)
- ・コミュニティにおける地域固有の知識や経験を活かした活動を評価するとともに、それらを

表す指標が必要である。例えば、地元の人たちが地域で実施している観察会といったものなど、先進的な事例や評価の高い活動の中からピックアップして、一つのサンプルとして入れるということはできると思う。(委員)

→次回の委員会では具体的なものを記載できるように検討したい。(事務局)

- ・シカによる食害やナラ枯れが近年大きな課題であり、これらへの対策や指標を考えていく必要がある。(委員)
- ・河川流量については、水質や自然的環境との関係からも重要な指標であり、検討していくべき事項である。(委員)
- ・アウトカム指標として、水辺植物等も含めて、在来生物の分布域というのを加えてほしい。(委員)

(3)琵琶湖の総合的な保全のための計画調査とりまとめイメージ(案)について(資料-4)

- ・連携の取組について、計画における基本的な考え方が確実に実行されるよう努力すべきであり、施策との関連性が分かりやすいように工夫する必要がある。(委員)

→とりまとめ・記載について工夫していきたい。(事務局)

- ・微量化学物質への対応については、PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に促進に関する法)に基づき取り扱い事業所等からの報告内容の全体を示して現状を説明しているが、ここでは水を中心に水域に関するものを区分し、整理することにより問題になるものがよりクリアになると思う。(委員)
- ・86ページに記載の「目標・指標の設定に関する視点」に関して、地球温暖化に関連する課題、低炭素社会づくりや循環型社会のあり方などの視点を盛り込む必要がある。また、これまでは平常時を対象としてきたが、突発的な問題(出水時、水質事故時等)への備えが長期的な視点では重要となることを記載する必要がある。(委員)
- ・連携の取組について、都市と農村や産業界との連携等を明記する必要がある。(委員)
- ・農用地と農地という表現が混在している。定義を明確にし、適切な表現にする必要がある。(委員)
- ・琵琶湖の水質保全のため更なる肥料の使用量の削減等とあるが、化学合成農薬・化学肥料使用量の更なる削減というように正確な表現にする必要がある。(委員)

(4)その他の欠席委員の意見について(事務局より紹介)

(5)全体を通じて今後のとりまとめについて

- ・本日の議論について、事務局で検討し、報告書とりまとめに反映してほしい。
- ・3分野や場について、今後の議論、取り扱いやすいように分けているが、本日の意見にあったように相互関係、各々の連携について記載する必要がある。(委員)

以上

別紙

オブザーバー出席者

農林水産省 農村振興局 整備部 設計課

林野庁 森林整備部 計画課

水産庁 漁港漁場整備部 計画課

環境省 水・大気環境局 水環境課

国土交通省 近畿地方整備局 建政部 計画管理課

滋賀県 琵琶湖環境部 琵琶湖再生課